

ヲ經過スルモ未ク十分ノ功ヲ奏スルニ至ラズ然ル所以ノモノハ
山河阻隔ノ地ニ在テハ建築資材運搬ノ便ヲ謀リ隨テ築キ
隨テ進ムノ順序ニシテ其施工盤錯ナルノ線路ハ其標定精
確緻密ノ調査ヲ經サレバ獨リ布設資金ヲ濫費スルノ恐レア
ルノミナラス運営上損失ノ關係甚大ナルヲ以テ輕忽ニ決行
シ難キモノアリ故ニ今ヨリ以テ從來ノ方針ノミニ遵ヒ別ニ
施工ノ門路ヲ開カサルトキハ遂ニ鐵道擴張ノ願ヲ翼賛
スルニ堪ユルノ事功ヲ奏スル能ハサレトス依之軍略或ハ政事
上ニ於テ必要トスルモノ則國民全体ノ休戚ニ關スルモノ亦直
接相當ノ利潤アルモノヲ撰ニテ布設ニ着手セントス例ハ京濱

鐵道ヲ延長シテ小田原ニ達シ神戸鐵道ヲ延長シテ播
磨備前ニ及ハシ或ハ近京既成線路ヨリ岐シテ八王子ニ
至ルカ如キ之レナリ而シテ其布設ヲ實施スルニハ先ツ左ノ三
項ヲ標準トシテ調査ニ着手セントスルニアリ

一 布設工費及運営上收入支出ノ豫算ヲ精確ニ調査シ
年々ノ收入營業費ヲ支エ其残余即チ純益ハ卸下セル
資金ニ對シ一年四分以上ノ割合ニ可及ト認ムルノ線路ハ緩
急ヲ謀リ布設スル事

一 既成線路ノ支線ニシテ之ヲ布設セシタメ既成線營業上
ニハ直接ノ贏利ヲ見サルモ本支ヲ通算スレハ前項ト同一

○ノ收増加ニ修支線ノ營業上

ノ割合ニ當リ利益ヲ生スヘキ線路ニ同断ノ事

附言 前二項布設工費ニ充用スヘキ資本総額ハ假ニ一
千萬円ト豫定シ其利息ハ七分トスルトキハ毎年補給ヲ
要スル金額ハ三拾萬円ヲ過キサルヘシ

一 日本鐵道會社特許線路ノ支線トナルヘキモノ同社ニ於
テ資金ヲ却下シ毫モ益金ノ補給ヲ仰カス其布設ヲ請
願スルトキハ之レヲ許可スル事

右裁可ヲ得ルニ於テハ中山道幹線等ト係攀シテ大ニ
施設ノ區域ヲ擴張セントスルノ旨趣ニシテ目下各地方ニ
於テモ鐵道ノ布設ハ最モ企望スル所ニ付何分ノ御詮議

可相成哉

右回覽ニ供ス

鐵道布設工事擴張之儀ニ付伺

中山道鐵道布設、今出シヨリ茲ニ二年餘其工事計畫ニ関シテハ一昨十七年十月及ヒ昨年三月ニ意見書ヲ呈シ裁可ヲ得タルヨリ以テ東部ハ高崎ヨリ横川ニテ布設竣功シ横川以西碓氷山脈ニ抵リ地勢險峻施工最モ盤錯ナル部分ハ目下線路精測中ニシテ直江津上田間ノ線路ハ直江津ヨリ新井ヨリテ布設大略竣功シ本年融雪ノ候ヨリ新井以南ニ延長スルノ準備中ナリ而シテ西部ハ大垣以東揖斐長良等數河ノ架橋工事錯盤ニシテ今尚ホ之レニ從事シ半田名古屋間ハ昨年七月ヲ以テ着手シ厥十二月略々功ヲ竣ヘ汽車ノ運轉ヲ試ミタリ中山道ノ工事概略此ノ如シ

而シテ日本鐵道會社ノ線路ハ昨年ノ初ニ當リ品川赤羽間ノ運輸ヲ開キ繼テ大宮宇都宮間ニ起手シ半年ヲ過キヌレテ其運輸ヲ開始シ今ヤ宇都宮以東ノ布設ニ着手シ別ニ仙台ヨリ福島ニ向ッテ布設スルノ計畫ヲ定メ其線路豫測中ナリ

參觀ノ爲メ別紙略圖ヲ附ス

鐵道事業ノ近況概畧前陳ノ如シ然リ而シテ勝等自ラ計ルニ事功寥々如此未々以テ擴張ノ堂旨ニ酬ユルニ足ラストス勝等本意ハ布設ノ准セラル、所資金ノ給セラル、所ハ四方八面各所ニ起工シ立地ニ偉功ヲ奏ヤント奮勵スト雖モ奈何ヤンエヨ施スニ順序アリ一昨年十月、上陳ニモ悉ヤシ如ク中山道、中部山河阻隔ノ地ニ至テハ建築資材運搬、便ヲ謀リ隨テ築

キ隨テ進ムノ順序ヲ以テ必スヤ東西既成線路ヨリ漸次延長スルト直江津半田ノ海澱ヨリ進ムトノ數途アルノニ會社線モ亦然リ宇都宮ヨリ東進スルト仙台ヨリ逆行スルトノ二途アルノニシテ他ニ施ス可キノ方ナシ且施工盤錯ナルノ線路ハ其選定亦最モ精確緻密ノ調査ヲ經サレハ獨リ布設資金ヲ濫費スルノ恐レアルノニナラス運營上永遠得失ノ關係甚タ大ナルヲ以テ輕忽ニ之レヲ決シ難キモノトス此等ノ事故ニ礙セラレ著シキ擴張ヲ爲ス能ハス實ニ已ヲ得サルノニ
是ニ於テ熟考スルニ今日以往モ只其方針ノニニ遵ヒ別ニ門路ヲ開カサル中ハ遂ニ鐵道擴張ノ廟謨ヲ翼賛スルニ堪ユルノ事功ヲ奏スル能ハサラントス別

ニ門路ヲ開クトハ何ソヤ他ナシ單ニ幹線布設ノ一途
ノミヲ墨守セズ別ニ有益ノ線路ニ就キ布設ノ業ヲ
起スニ在ルノミ請フ左ニ之ヲ詳論セム

抑鐵道布設ノ目的ハ運輸ノ便ヲ開キ交通ノ利ヲ起ス
ニ在ト雖モ其線路ヲ大別スレハ二種アリトス甲ハ
軍略或ハ政事上最モ緊要ニシテ國民全体ノ休戚ニ
關スルモノ乙ハ其運営上ノ收入直接ニ資本ニ對シ
相當ノ利潤アルモノ或ハ既成線路ノ支線トナリ本
線運営上ノ利益ヲ增加スヘキモノトス故ニ甲種ノ
線路ハ假令其營業上ニ於テハ收支僅ニ相償フカ或
ハ年々若干ノ損欠アルモ間接ノ利益ニ於テ必用ト
認ムル中ハ其布設ヲ怠ル可ラス而シテ乙種ノ線
路ハ布設ノ費額ト運営上收支ノ豫算トヲ精確ニ

查考シ果シテ資本ニ對スルノ利潤アリトスルモノハ
之レヲ布設スルヲ得策トス蓋シ乙種ノ如ク單ニ運
營上利潤ノミヲ目的トシテ布設スヘキノ線路ハ即
チ旅客ノ來往貨物ノ運搬頻繁ニシテ鐵道ヲ利用ス
ルモノ多キ所ナレハ物産ヲ増殖シ工商ヲ振起スル
間接ノ利益モ亦隨テ少ナカラサルヘシ

且ツ夫レ鐵道ハ富國ノ要具開物ノ利器タル論ヲ茲
ヲスト雖モ之レヲ布設スルハ即チ一國ノ流通資本
本ヲ轉シテ固定財産トナスモノニシテ其年々
轉用スヘキ資金ノ総額ハ必ス国内資本ノ消長ヲ
考ヘ其轉用ノ結果即チ固定財産ヨリ生スヘキ殖利
ノ多寡ヲ審カニシテ流固權衡ヲ失セサルヲ要スヘキ
ハ勿論ニシテ是等斟酌ハ其職掌ノ在ル有レハ勝カ

敢テ知道スル所ニ非スト。蓋モ前段ニ所謂乙種線路ノ布設ハ直接ノ殖利ヲ目的トスルヲ以テ流固轉換ノ影響全体ノ資本消長ニ及フコト甲種線路ノ布設ニ比スレハ頗ル輕ク且ツ小ナルハ論ヲ竝々サレハ理財上ニ於テモ敢テ不可ナカルヘシト信ス。今ヤ勝カ鐵道擴張ノ別路ト目シテ九載ヲ乞ハント欲スルモハ即今此ノ乙種線路ノ布設ヲ許可セラルノ一事タリ。京濱鐵道ヲ延長シテ小田原ニ達セシメ神戸鐵道ヲ延長シテ播磨備前ニ及シ或ハ近京既成線路ヨリ岐シテ八王子ニ至ルカ如キ其實例トナルヘキ歟而シテ是等布設ヲ實施スルニハ先ツ左ノ數項ヲ標準トシテ其調査ニ着手セサル可カラスト思考セリ。

一 布設工費及ヒ運営上收入支出ノ豫算ヲ精確ニ調査シ年々ノ收入營業費ヲ支エ其殘餘即チ純益ハ卸下セル資金ニ對シ一年四分以上ノ割合ニ可及ト認ムルノ線路ハ緩急ヲ謀リ布設スル事

一 既成線路ノ支線ニシテ之レヲ布設セシタノ既成線營業上ノ收益ヲ増加シ假令支線ノミノ營業上ニハ直接ノ贏利ヲ見サルモ本支ヲ通算スレハ前項ト同一ノ割合ニ當ル利益ヲ生スヘキ線路ハ同断ノ事

附言 前二項布設工費ニ充用スヘキ資本總額ハ假ニ一千萬圓ト豫定シ其利息ハ七分トスル中ハ毎年補給ヲ要スル金額ハ三拾萬圓ヲ

過キサルヘシ

一日本鐵道會社特許線路ノ支線トナルヘキモノ
同社ニ於テ資金ヲ卸下シ毫モ益金ノ補給ヲ仰
カス其布設ヲ請願スルハ之レヲ許可スル事

右純益金ノ割合四分ニ達スレハ則チ利アルノ線
路ニ算入スルハ或ハ純益ノ高少ナキニ過ルカ如
キナレバ已ニ前段ニ論セシ如ク物産ヲ増殖シ工
高ヲ振起スル間接ノ利益甚ク大ナルヲ以テ普通
ノ金利ト此純益トノ差異ハ間接ニ政府ニ收得スル
モノトスルモ敢テ不可ナカルヘシ況ニヤ運輸上ノ收
益ハ年々増加スルヲ以テ通則トスルカ故ニ純益
ノ割合ト普通金利トノ差異ハ年々逐テ遞減シ竟
ニ十分ノ純益ヲ得ルニ至ルノ線路モ亦多カルヘ

キニ於テヲヤ

右ノ上請ノ旨趣裁可ヲ得ルニ至ラハ中山道幹線等
ト保舉シテ大ニ施設ノ區域ヲ廣ノ勝等稍曠職
ノ責ヲ塞クノミナラズ頗ル鐵道擴張ノ時機ヲ誤
ラサルモノトスホテナレハ客年中ニ竣功セシ線
路ハ前段ニ臆列セシ如クニシテ其延長ヲ合計ス
レハ一百英里ニ過キタリ今日ヨリ之レヲ視レハ寧
々ト稱スヘシト雖モ之レヲ數年前ノ景況ニ比スレハ
如何トナスマヤ然ルモ高木朝野輩々布設ノ遲緩ヲ
責ムルモノ、如シカフニ各地ニ鐵道起業ヲ企圖
スルモノアリ實ニ鐵道ハ擴張ノ氣運ニ遭遇セシモ
ノト謂フヘシ今此機ニ乘シテ大ニ布設ノ事ヲ遂
ルハ亦大計ノ得タリトスル所ナラシト信ス尤モ

中山道幹線ノ件ニ付テハ苟カ卑見ヲ蓄ヘ目下
 審按中ニ付追テ上請スヘキ儀モ可有之候得共
 乙種線路布設ノ儀ハ亦目下ノ急務タルヲ免レ
 サレハ先以テ其大体ニ就キ一應高裁ヲ仰キ候
 其之レニ属スヘキ土地ト其景況トハ精細査覈
 ヲ待テ更ニ上陳可及候也

明治十九年三月

鐵道局長官井上 勝

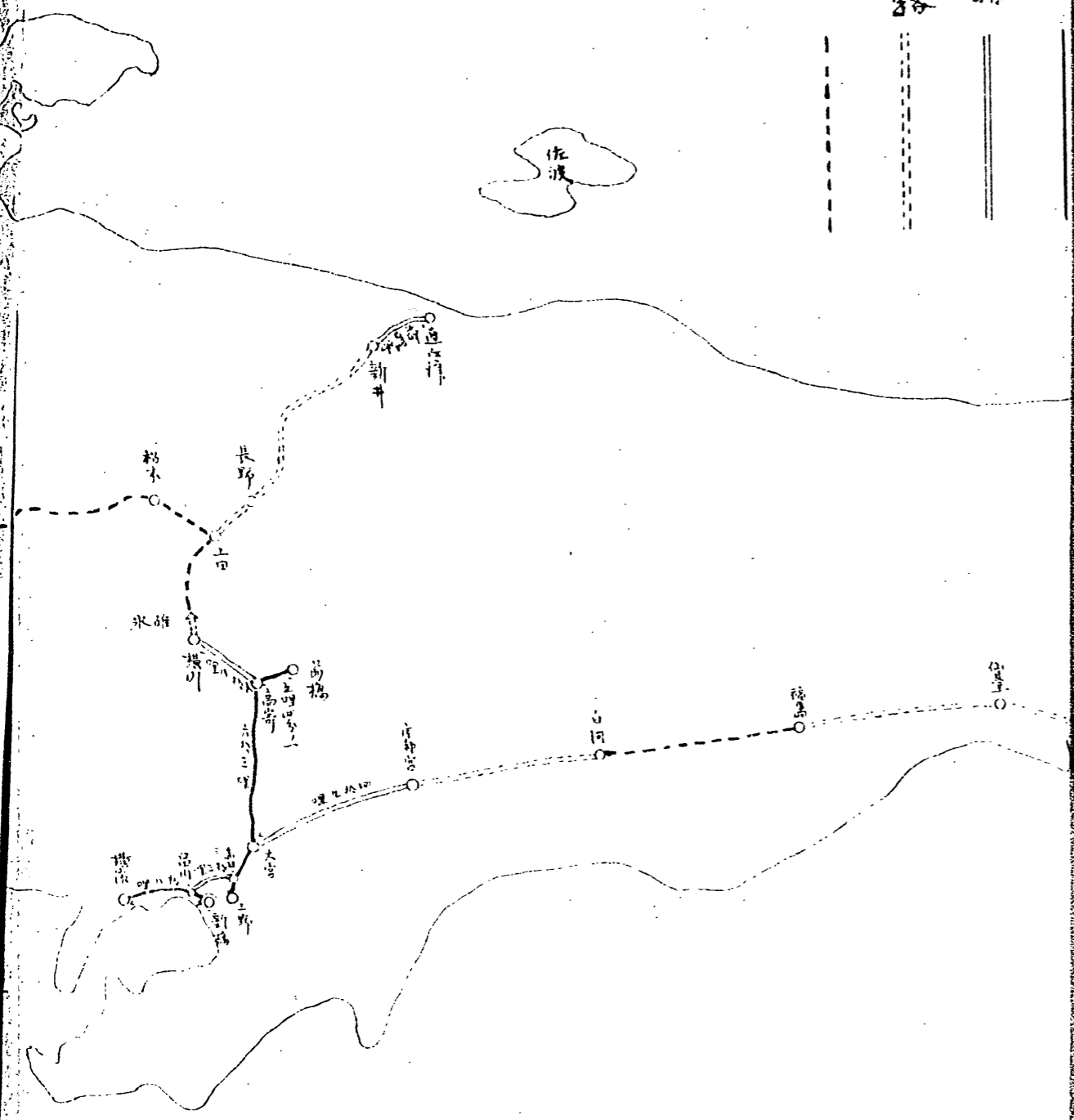
内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

既成線路

十年中布設功線路

測量済メ測量中線路

布設見込線路

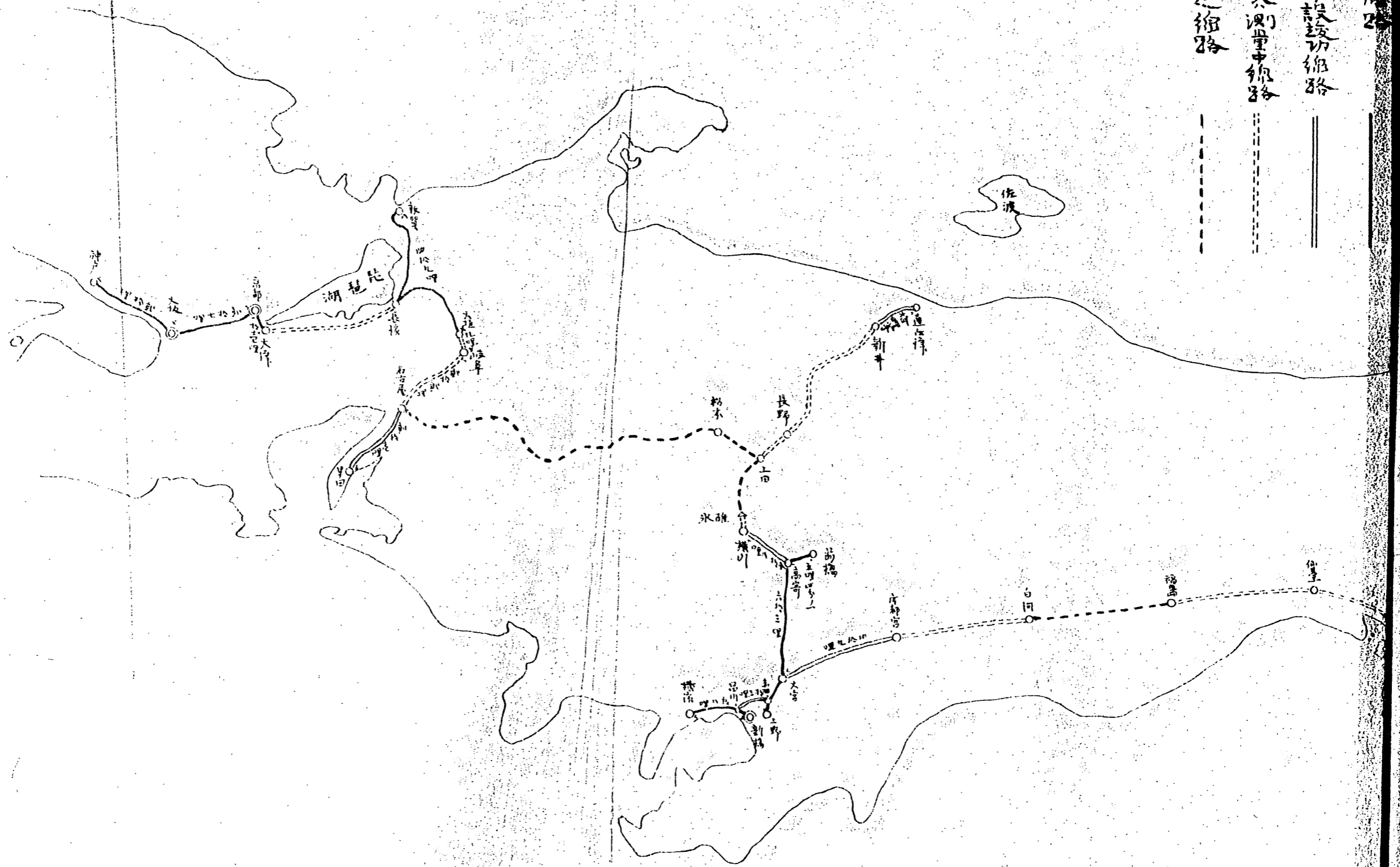


既成線路

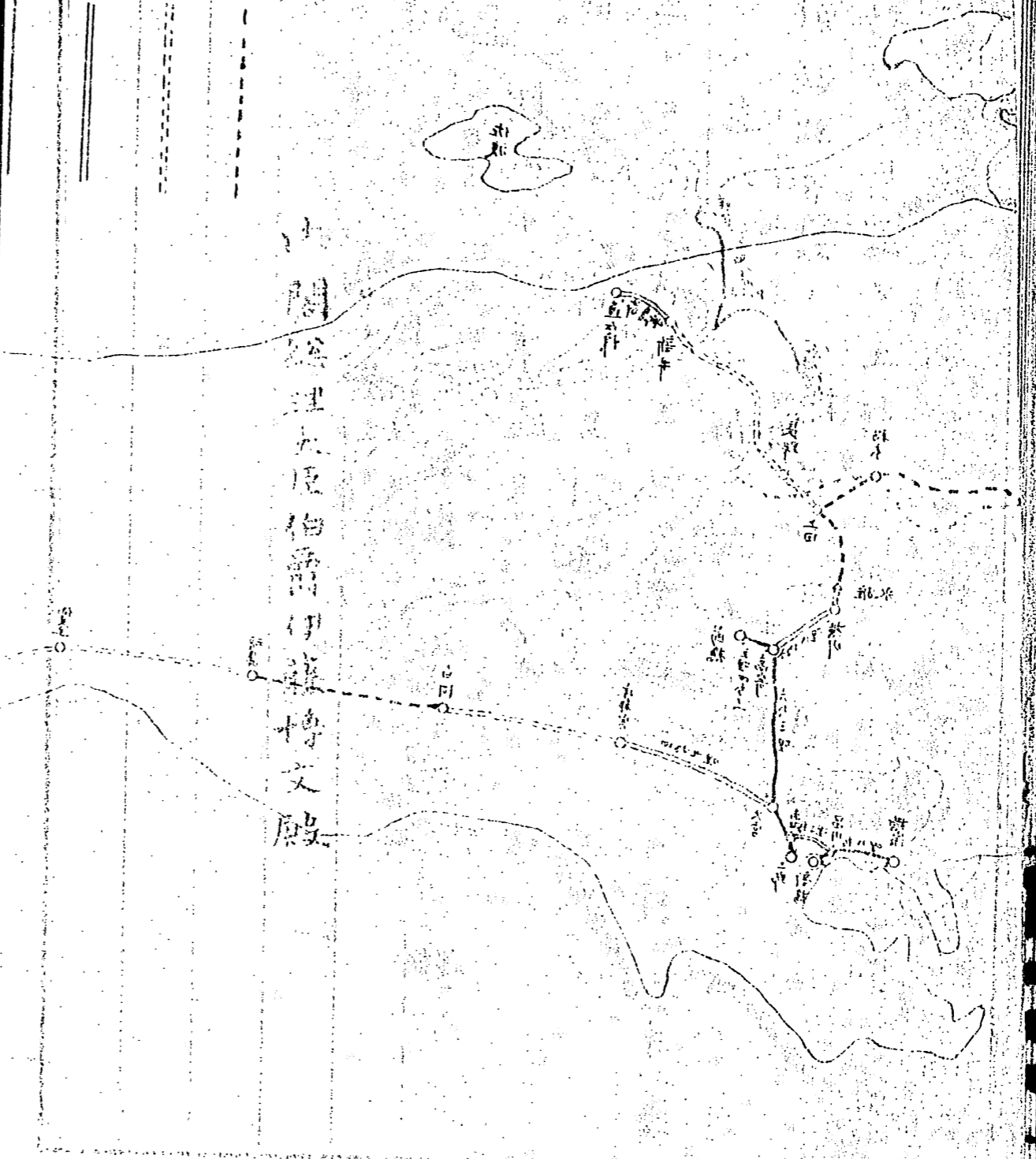
大正布設竣工線路

測量済又測量中線路

布設見込線路



本署
 大藏省
 大蔵省
 大蔵省
 大蔵省



内閣總理大臣伯耆伊豫守博文殿

明治十九年四月廿九日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

各省大臣

外務	内務
大蔵省	陸軍省
海軍省	司法省
文部省	農商務省
逓信省	

鐵道局長官伺鐵道布設工事擴張ノ件
 付外務大臣意見書

鐵道局伺及附箋ニ付意見

鐵道局長官伺乙種線路布設、本業ト該伺附箋、旨趣
トヲ把リ併セテ之ヲ按スルニ亘ク當初、目的ヲ確守シ
東京大坂貫通ノ目的ヲ達スルヲ可トス云々ハ詢ニ然
リ予モ亦夕固リ此議ヲ執ルナリ然ニ鐵道局伺乙中山
道幹線、布設ヲ急カセニシテ乙種線路、ミシ急ニセン
ト欲スルニハ非ラヌ要スルニ中山道幹線、布設ハ頗
ル大事業ニシテ加フルニ碓氷山脉等、難路ヤリテ動
モスレハ實際、施工當初、見込、如キ能ハス日夜之
ヲ亟ニスルモ其成功ニ至ルマテ、間ハ仍ホ多少、歳
月ヲ費ヤサ、ル可ラス今ヤ鐵道、便ヲ要スル一日ニ
急ニシテ外間ニ於テモ往々或ハ我鐵道布設、緩慢ヲ
論スル者アル際ニ當リテ後ヲニ幹線布設、一途ノニ

ヨ墨守シ具未タ成ラサル間ハ他ニ有益ノ線路ノ急設
ヲ要シ且ツ其成功モ易クシテ収支上ノ利益モ直ニ隨
フテ生ス可キ者アルモ總テ棄置テ顧ミスト為スハ國
家ノ利ニ非ラズ故ニ如此線路ヲ擇ンテ別ニ布設ノ業
ヲ起シ中山道幹線等ノ工事ト併奉シテ之ヲ行ヒ其布
設ノ時機ヲ失ハス以テ鐵道擴張ノ廟護ヲ翼賛セルト
欲スルニ在レハ是モ亦タ宜ク之ヲ熟按セサル可ラス
予ハ以為ラク此ノ乙種線路別設ノ議ニ付尤モ宜ク先
ニ熟察セサル可ラサル者ハ此ノ乙種線路カ他日甲種
幹線ト联接シ得ルノ便アルカ否ノ事ナリ此ノ乙種線
路ニシテ果シテ他日此便アル可キ者ナラハ之ヲ布設
スルハ乃チ數年ノ後ノ便利ヲ引上テ今日ヨリ之ヲ
開クニ外ナラス寧ロ之ヲ日本全國ニ鐵道ヲ貫串セル

ルノ大目的ニ副フノ任法ト為サハル可ラス若シ之
ニ及レテ此ノ乙種線路ニシテ終ニ甲種幹線ニ联接シ
得ルノ便ヲ欠ク可キ者ハ之ヲ今日ニ布設スルハ乃チ
不急トス此ノ定率ニ照ラレテ鐵道局ノ議ヲ取捨セハ
庶クハ可ナラン

又々今ヤ鐵道局長官ノ言ノ如ク各地方ニ於テモ鐵道
ノ布設ヲ冀望スルノ如ク切ニシテ鐵道會社ヲ設ケテ
鐵道ヲ具地方ニ布設スルノ出願シ若クハ之ヲ計畫
スル者若手山形及ヒ信州ノ如キ若干地方アルニ至シ
リ然ルニ如此ク數個ノ會社ヲシテ各地方ニ起
ラシムルハ經濟上ニ於テ不利ナルハ勿論其他種々ノ
弊ノ後ヲ生スル所ナレハ此次ニ於テ亦セテ之ヲ熟按
シ之ヲシテ其資金ヲ政府ニ納レシメ政府ヨリハ該資

金ニ對シテ幾分、利益ヲ請合ヒ其鐵道ハ政府一手ヲ以テ之ヲ布設管理スル者トスルカ或ハ之ヲシテ悉ク日本鐵道會社ニ合併セシムルトスルカ二者ノ中ヨリ擇フヲ以テ可トス試ニ之ヲ日本鐵道會社ニ合併セシムルト爲セハ該會社ヲシテ更ニ其規模ヲ大ニシ多ク内外技師等ヲ雇入シ以テ其事業ヲ進メシム可シ此ノ場合ニ於テモ常ニ注意シテ本線支線相联接シテ互ニ其利ヲ成スヲ謀ラシムルトハ尤モ肝要トス果シテ如是ナランニハ第一ニ全體工ニ於テ大ニ鐵道ノ工事ヲ撻取ラヌ可ク第二ニ政府并ニ各地方ニ於テ後ニ資金ヲ募集シテ空ク其息ヲ銷スルノ損失ヲ免ル可ク第三ニ政府ハ又夕因テ鐵道工事ノ急ヲ要スルノ地方多クシテ餘力ノ以テ之ニ應ス可キ無キノ憾ヲ減スル

トヲ得可ク即チ此度鐵道局伺、所謂ル乙種線路ノ如キ類ノ中ニ於テモ必ラスレモ悉ク之ヲ官設スルヲ須クスレテ其業自ラ舉ル者アルニ至ラン是レ其ノ我鐵道事業ノ進歩ニ於ケル其關係尠少ニアラズ故ニ各地方ヨリ出願中ナル鐵道會社ノ件ハ宜ク此ノ鐵道局ノ伺ニ併セラテ之ヲ看サレ可ラス夫レ後ニ鐵道局カ後前鐵道ヲ布設シタルノ順序ニ循ヒ少クモ時ニ隨フテ變通スル所ナキハ予ハ決シテ真可ナルトヲ知ラス故ニ予ハ此伺ヲ以テ寧ロ其ノ當然ノ業タルトヲ信ス即チ中山道幹線ノ工事ト係攀シテ別ニ乙種線路ノ事業ヲ起シ而シテ此ノ乙種線路ハ尤モ具果シテ他日甲種幹線ト联接シ得ルノ便ナル者カ否ヲ察シテ之ヲ擇ヒ布設セシムル者トセハ決シテ當

